

◎栽培履歴の記帳を必ず行いましょう。

令和8年産

大豆栽培こよみ

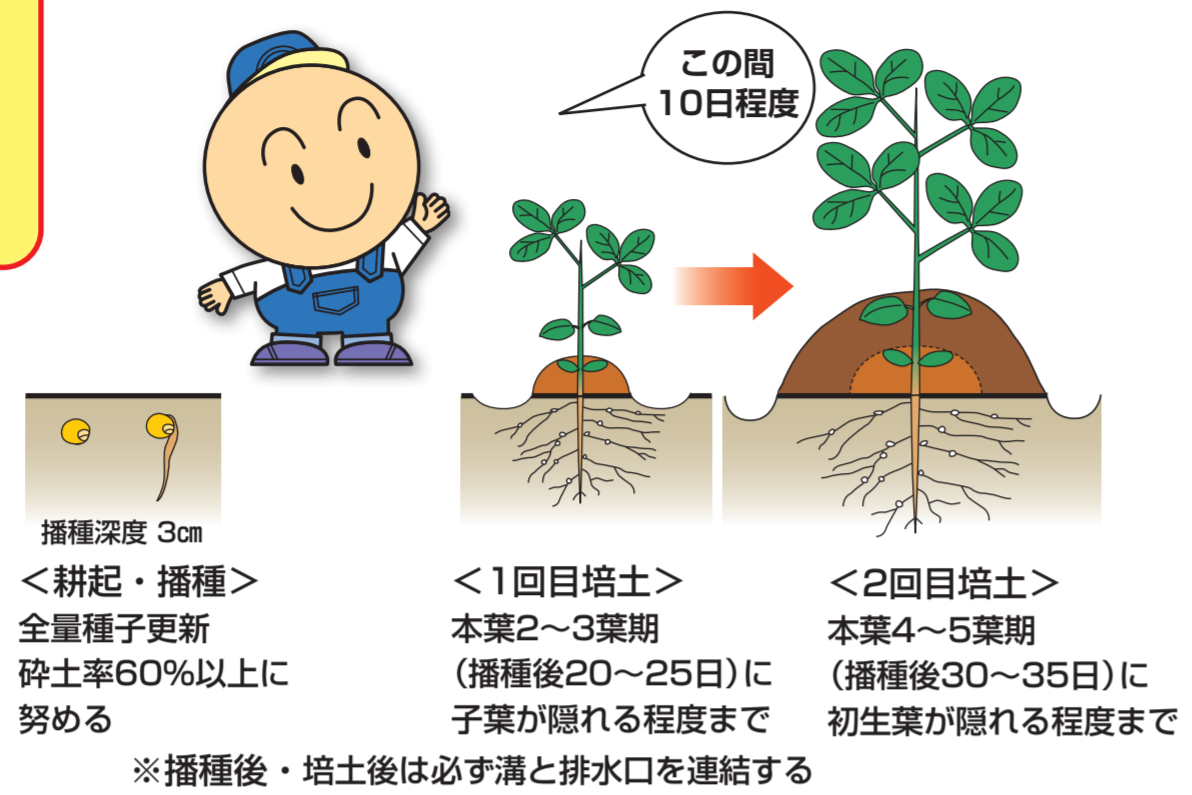
- 射水市農業技術者協議会
- 射水市
- JAいみず野
- 富山県高岡農林振興センター

目標

単収：200kg以上/10a
 1～3等比率：80%以上
 大粒比率：80%以上

重点ポイント

1. 排水対策の徹底
 2. 地力に応じた基肥施用



<近年目立つ病害虫>

葉焼病
 ホソヘリカメムシ
 イチモンジカメムシ(約1cm)
 カメムシ類の吸汁被害

<ウコンノメイガによる葉巻>
 7月下旬に1本あたり平均葉巻数が6個以上の場合、防除実施

※発生状況により随時防除(右下表参照)

<収穫時期の判定の目安>

莢色
 黄緑 黄 黄褐 褐色

豆の状態

◆莢色が褐色になれば成熟期
 ◆高水分粒が殆どなくなり9割以上の莢が褐色になれば収穫可能

<黒根腐病が発生している圃場の対策>

- (1) 排水対策の徹底
- (2) 播種時期は6月1日以降とする(早い播種は発生を助長)
- (3) 多発圃場での培土は1回のみとする

月	旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ	単作エンレイ				発芽	生育期	1回目培土	生育期	2回目培土	開花期	莢伸長期	子実肥大期	黄葉期	落葉期	成熟期							
主な作業		排水対策	土づくり	ヘアリーベッチ細断	除草剤散布	播種	2回目培土	2回目除草剤散布	2回目培土	1回目防除	畦間かん水	2回目防除			収穫							

《排水対策》

- 前年秋又は遅くとも4月までに額縁及び基幹排水溝設置
- 心土破碎等で透水性向上

排水手順

水口はしっかり止める
 心土破碎の実施
 排水溝は深く掘り下げた排水口と連結

水口
 本暗渠
 額縁排水溝
 排水溝は確実に連結
 サブソイラ等の心土破碎と額縁排水溝を連結

《土づくり》

- 土壌pH6.0～6.5に矯正
- ヘアリーベッチの利用

すきこんだ場合は基肥を0～15kg/10aにする。

項目	資材名	10a当り施用量
基肥	BB基肥084	単作 30kg 麦あと 40kg
	LPS大豆専用	単作 25kg 麦あと 30kg

※青立ち株が多発する場合は2～3割減肥する。

《苗立ちの安定に向けて 碎土率を高めるためのポイント》

- 籾殻や緑肥のすきこみ
- 耕起～播種の一連作業は、土壌の乾いた日に1日で行う。
- 碎土率が低くなりがちな圃場は、トラクタの車速は低速、ロータリは高速で耕起する。

《雑草対策》

- 播種後速やかに散布する
- 大豆は露出しないよう覆土する

薬剤名	10a当り散布量
プロールプラス乳剤	400～600ml
ラクサー乳剤	400～800ml
ラクサー粒剤	4～8kg

※イヌホオズキ類、ヒユ類の多発圃場では、プロールプラス乳剤又はラクサー乳剤を使用する。

《イヌホオズキ類の防除体系》

大豆の生育	作業日目安	2葉期	3葉期	4葉期	5葉期
播種	6/1	6/20	6/25	7/1	7/6
防除作業	ラクサー、70-ルアス	1回目培土	ロックス	2回目培土	バスタ又はザクサ

《畦間かん水》

- 晴天が3日以上続く場合、かん水する(青立ち防止)。
- 圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

マルバルコウ
 燗化アサガオ類等の早期発見と開花・結実前の除去に努めましょう!

イヌホオズキ

《収穫》

- 9割以上の莢が褐色になったら刈り始め、適期内に刈り終える。
- 刈取前に雑草や青立ち株を除去する。
- 露がなくなってから刈り取る。
- 刈取高さは地際から10cm以上で行う。

《病害虫対策》

◆基本防除

防除時期	液剤体系			空散		
	薬剤名	希釈倍率	10a当り散布量	薬剤名	希釈倍率	10a当り散布量
7月下旬まで	Zボルドー【葉焼病】	500倍	150ℓ	-	-	-
1回目防除	ダントツフロアブル【カメムシ類・アブラムシ類】(収穫7日前まで)	2,500倍	150ℓ	ダントツフロアブル【カメムシ類・アブラムシ類】(収穫7日前まで)	24倍	0.8ℓ
	ブランドム乳剤25【紫斑病】(収穫7日前まで)	4,000倍	150ℓ	ブランドム乳剤25【紫斑病】(収穫7日前まで)	16～24倍	0.8ℓ
2回目防除	(※)トレボン乳剤【カメムシ類】(収穫14日前まで)	1,000倍	150ℓ	(※)アミスタートレボンSE【紫斑病・カメムシ類・ハスモンヨトウ等】(収穫21日前まで)	8倍	0.8ℓ
	アミスター20フロアブル【紫斑病】(収穫7日前まで)	2,000倍	150ℓ			

◆随時防除

病害虫の種類	薬剤名	希釈倍率	10a当り散布量
茎疫病	フェスティバルC水和剤(収穫7日前まで)	600倍	150ℓ
葉焼病(エンレイ)	Zボルドー	500倍	150ℓ
ウコンノメイガ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ等	プレバソフフロアブル5(収穫7日前まで)	4,000倍	150ℓ
ウコンノメイガ、マメシクイガ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、カメムシ類	ダントツ粉剤DL(収穫7日前まで)	-	3～4kg(ウコンシクイガの場合は4kg)
ハスモンヨトウ、マメシクイガ等	(※)トレボン粉剤DL(収穫14日前まで)	-	4kg
	(※)トレボン乳剤(収穫14日前まで)	1,000倍	150ℓ

(※)トレボンの使用回数は2回以内

《播種作業》

- 消毒(クルーザーMAXX)済種子を使用
- 対象病害虫 茎疫病、フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類
- 栽植本数確保の為、エンレイはB-22、シュウレイはB-33を使用
- ◆品種別、播種時期別の栽植本数及び播種量の目安

品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量の目安(kg/10a)	使用目皿
エンレイ	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	5.5～6.3	B-22
	6月中旬	16,000～18,000	6.3～7.0	B-22
シュウレイ	6月上旬	12,000～15,000	4.8～6.0	B-33
	6月中旬	15,000～18,000	6.0～7.2	B-33

※エンレイで青立ち株が多発する場合は、6月1日以降に播種するとともに苗立本数を多く確保する。
 ※大粒の百粒重：エンレイ35.2g、シュウレイ36.1gとして算出。
 ※播種作業時には種の落下量を確認する。

雑草の種類	使用方法	薬剤名	10a当り散布量	注意
1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	全面散布	ボルトフロアブル	200～300ml +水100ℓ	・散布は2回まで ・イネ科雑草3～10葉期まで ・収穫30日前まで
1年生雑草(イネ科を除く)	全面散布	大豆バサグラン液剤	100～150ml +水100ℓ	・散布は1回のみ ・大豆2葉期～開花前まで ・収穫45日前まで
1年生雑草(イヌホオズキ類)	株間・畦間散布	ロックス	100～200g +水100ℓ	・大豆3葉期～収穫30日前まで ・散布は1回のみ ・畦間散布(大豆にはかけない) ・株間処理(大豆の葉にはかけない)
1年生雑草(燗化アサガオ類等含む)	株間・畦間散布	ザクサ液剤	300～500ml +水100ℓ	・収穫28日前まで3回以内 ・畦間散布(大豆にはかけない) ・株間処理(大豆の葉にはかけない)(バスタのみ本葉5葉期以降) ・ザクサ、バスタの総使用回数は高剤合わせて3回以内